



「写真展・旧鎌原村発掘Ⅰ期」展示の開催	P-1
9月21日(火)は「十五夜お月見」の日	P-1
令和3年度旧鎌原村発掘調査終わる	P-2
令和3年度教養講座3講座の開催	P-2
「鎌原の郷倉」の保存整備事業進捗状況	P-3
「郷倉」屋根葺き替え用茅刈り体験記	P-3
連載(6) 嬬恋村の文化財 大笹駅浅間碑	P-4
耳よりコーナー	P-4

黒斑山からの浅間山眺望

編集 嬬恋郷土資料館友の会 2021年12月発行 第 34号

嬬恋郷土資料館 友の会だより

嬬恋郷土資料館「友の会」(宮崎光男会長)では、新型コロナウイルス感染拡大も下火となり、企画、活動を徐々にひろげつつあります。今回の「友の会だより」第34号では、令和3年度のイベントや活動の模様をダイジェストとしてご紹介いたします。

「写真展・旧鎌原村発掘Ⅰ期」の展示が行われました



郷土資料館では、昭和54年から平成3年にかけておこなわれた旧鎌原村発掘調査の記録写真の展示を”「封印された天明三年」の扉を再び開く”と題し、7月8日から12月26日の間に開催されました。未公開写真を中心に平成3年度に撮影された映像ビデオ等関係資料多数が公開展示されました。

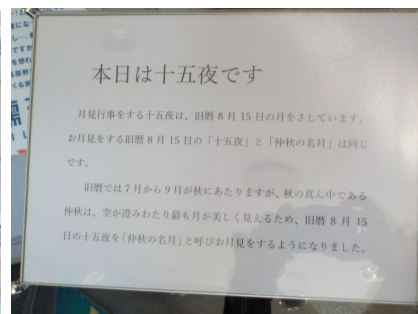
「これは何でしょう?」(右の写真)

天明3年の畑跡(長野原町の中棚Ⅱ遺跡)から発掘されました。次回、令和4年1月5日から開催されます「旧鎌原村発掘Ⅱ期展」でこの謎が解き明かされます。 ご期待ください。



9月21日(火)は「十五夜お月見」の日でした

旧暦では秋は8月から9月にあたります。秋の真ん中である仲秋は空が澄みわたり、最も月が美しく見えます。旧暦の8月15日の十五夜を「仲秋の名月」と呼びお月見をするようになりました。郷土資料館に飾られたお月見団子とお供え物です。



令和3年度旧鎌原村発掘調査が終わりました。



1783(天明3)年の浅間山大噴火で発生した「土石なだれ」により埋没した鎌原村(現群馬県嬬恋村鎌原)で30年ぶりに実施されている発掘調査で、噴火によって流れ出た土砂が、噴火前の地層を削り取ったとみられる跡が複数確認されました。調査を主導する嬬恋郷土資料館の関俊明館長は「痕跡を確認できたのは大きな成果、今後、痕跡を分析することで土石なだれが流れた方向などが解明できるかもしれない」と期待しています。11月1日から始まった調査では、鎌原神社周辺の18地点を重機を使って掘削。噴火によって堆積した地層の下を確認したところ、神社の境内や周辺の畑など8

カ所で、土砂が地層を削り取った痕跡が見つかりました。痕跡は噴火当時の地層とみられる黒土部分に残っていたほか、それよりもさらに昔に堆積した黄褐色のローム層部分にも確認されたことから、土砂が表面の地層を全て飲み込むほどの勢いだったことが推察されます。(上毛新聞記事より転載)

令和3年度教養講座が開催されました

12月には恒例の嬬恋郷土資料館の令和3年度教養講座3講座が開催されました。



「群馬の温泉旅館建築と鹿澤館」 12月4日開講

講師:群馬県文化財保護審議会副会長・前橋工科大学客員教授

村田 敬一 先生

一昨年の台風19号の被害で営業を取りやめ、昨年の7月解体となった鹿澤館の建造物調査を踏まえ、群馬における温泉旅館建築の価値と見方を紹介いただきました。



「やんちゃな火山・浅間山」 12月11日開講

講師:日本大学教授 安井 真也 先生

ブラタモリや歴史秘話ヒストリアでおなじみの安井先生から、浅間山についてわかりやすく解説をいただきました。浅間山熔岩樹型の調査で学術指導にお世話になっています。



「故郷のリアルを描く-浅間山の制作を通して-」 12月18日開講

講師:画家/武蔵野美術大学・東北工科大学・女子美術短期大学部非常勤講師 水野 暁 先生

水野先生は、写実絵画の意義を問うアーティストとして活躍されています。地元の浅間山を題材にした制作の裏話を交えたお話をいただきました。

「鎌原の郷倉」の保存整備事業が進んでいます



令和2年5月より鎌原の郷倉の保存整備事業を進めてきました。

現在は、基礎が修復された状態で、軸組の板壁や小屋組み等を部材ごとに修復中です。

今後は、来年3月以降に軸組井籠板壁等の組み立てや、茅刈り体験で刈り取った茅を使った茅葺屋根の修復、鎌原の壁土による壁土塗りなどを行い、令和4年の秋には完成予定です。

茅葺は見学会となる見込みですが、壁塗りは地区の皆さんと一緒に体験できる事業を予定していますので、新型コロナウイルスの影響がないことを願っています。（郷土資料館 熊川武彦氏記）

「郷倉」屋根葺き替え用茅刈り体験に参加しました



絶好の晴天に恵まれた11月14日、浅間山の遠望できる嬬恋村鎌原下松原地区で開催された「郷倉屋根葺き替え用茅刈り体験会」に参加させていただきました。すでにご存じの通り、鎌原神社前に天明以降に建てられたと言われています「鎌原の郷倉」保存整備事業が着々と進んでいます。この茅葺き屋根に地元鎌原地区で採れる茅を使って葺き換えようとの声で今回の開催が計画されました。鎌原区の皆様方を中心に子供たちを含め、30名近くの参加者が一同そろったところで、主催の鎌原区、嬬恋村教育委員会の皆様方のご挨拶がありました。その後、早速茅を葺き替える専門家の方より茅の刈り方、茅のまとめ方、注意点を丁寧に指導いただきました。郷倉の茅葺き屋根は葦(よし)を敷き、その上に茅(かや ススキのこと)を積み上げた構造で、4トン車1台分の量が必要になるということでした。茅は出来るだけ真っすぐに育ったものを刈り取ります。刈り取りにはほどほどの力が必要で、ひもでまとめると結構重くて、マスクをしての作業は息切れしそうでした。2時間ほどの作業で山積みの茅が集まり、乾燥した後に屋根葺き作業に使われるそうです。郷倉の屋根葺きには十分な量とうかがいしました。休憩時には「郷倉」が登場した「寅さんの男はつらいよ」の映画口けの話題も出て当時の話などでも盛り上がりました。うっすらと汗もにじむ、小春日和の茅刈り体験会でした。皆様お疲れさまでした。（編集員記）

連載(6) 嬬恋村の文化財 大笹駅浅間碑(村指定 重要文化財)



天明3年(1783)の浅間焼けの際、災害復旧に大きな貢献をした大笹宿問屋の主人黒岩長左衛門(大栄)は、当時、狂歌の第一人者であった蜀山人(太田南畝)に、碑の撰文と揮毫を依頼し、災害碑の建立を志しました。その子長左衛門(佗澄 わびすみ)は、亡父十三回忌の手向けとして、大笹宿の中程に碑を建て「大笹駅浅間碑」としました。昭和41年に鬼押し出し園に移設され現在に至っています。その碑文は、人心を不安と動

揺に陥れた噴火の様子を後世に伝えると共に、噴火災害に対する心構えを記したものです。天明期に江戸狂歌流行の中心になった蜀山人の撰文と揮毫を残した災害碑は、多数建立された慰霊と供養のための碑の中にあって、異色のものであり大変重要なものとされています。

耳よりコーナー

・2020年秋に誕生した嬬恋村おいしい米づくり研究会のブランド米「嬬恋米」、令和3年産新米の販売が開始されました。米・食味分析鑑定コンクール国際大会において何度も金賞を受賞しており、2020年大会においても群馬県内で唯一の国際総合部門「金賞」を受賞する等評価されています。また、令和2年新嘗祭へ群馬県を代表して献穀し「皇室献上米」として選ばれた誉れ高いお米です。資料館横の直売所「あさまのいぶき」や村内スーパーにて販売されています。



・嬬恋村の公式アプリ「つまっぷ」がリリースされました。嬬恋村巡りがより楽しくなるアプリです。嬬恋村の人気スポットをスタンプラリーのように巡ります。コース毎にスポットを巡り、検定に合格しますと記念品がもらえます。App Store及びGoogle Play より「嬬恋村公式アプリ つまっぷ」アプリがダウンロードできます。